「ワクチン助成制度」「防災対策」について

小野田由紀子　議員

問　子宮頸がん予防ワクチンヒブワクチンと小児肺炎球菌ワクチンの現状と今後の取り組みについて問う。

答　平成23年1月から7月までの接種者数は、子宮頸がん予防ワクチンが506人で延べ920回、ヒブワクチンが1173人で延べ1473回、小児用肺炎球菌ワクチンが1324人で延べ1799回。来年度以降の事業の方向性については、決定した時点でより早く情報提供を行ってまいりたい。

問　高齢者の死亡原因第4位である肺炎の予防として、高齢者肺炎球菌ワクチン公費助成について問う。

答　肺炎による死亡率は、死亡要因の第4位であり、高齢になるに従って男女とも増加がみられ、総合的な評価としては、疾病の影響、医療的経済的な評価等を踏まえると、高齢者に対して接種を促進していくことが望ましい。

高齢者の肺炎球菌ワクチンの対象者をどの年齢にするかなど、国の制度により継続的な制度となることが望ましいと考えています。

問　災害時、お子さんの生命を守る防災教育の推進、小中学校の窓ガラス飛散防止対策について問う。

答　釜石市の防災教育に学び、早急に検討していきたい。窓ガラス飛散防止対策だけでなくトータル的に議論してまいりたい。

問　災害時地域貢献建築物の認定助成制度、被災者支援システムの導入について問う。

答　地域の住民が主体となって避難場所を検討し、行政はサポートしていく。愛知県のシステムを共同利用することを検討していきたい。

介護予防事業について

北川　広人　議員

問　国が介護予防を重点施策として位置づける中、当市の考え方や今後の方針は。

答　介護予防事業に取り組むと、介護サービスの受給者数の減少や医療費の削減に繋がる。到来する超高齢化社会を乗り越えるための基本戦略を介護予防としていく。高齢者の介護予防と健康増進を積極的に推進するため、「生涯現役のまちづくり」の実現を目指し、事業展開していく。

問　考えている具体的な調査研究事業の例は。

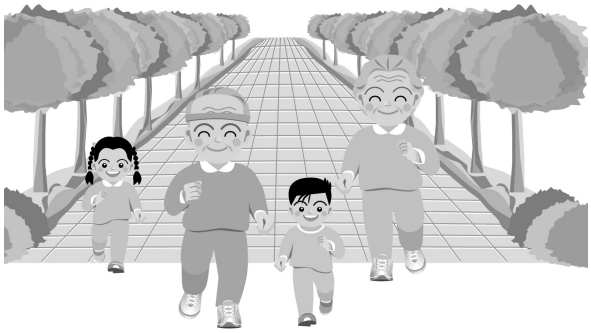
答　公民館、図書館、美術館、地元商店等の市内各所の社会資源において、様々な介護予防と健康増進を目的としたプログラムを実施することにより、高齢者の方々が町の中を動き回りながら、自己選択、自己決定したメニューを実践し、健康づくりに励んで頂く仕組みづくりを考えている。また、高浜らしい地域の財である「川」や「海」等も上手く結び付けていく。

問　次年度以降は税の投入も考えて推進していくのか。

答　「生涯現役のまちづくり」こそ、国が目指す「高齢者が尊厳を保ちながら暮らし続けることができる社会の実現」に繋がると考える。ハード整備ではなく、ソフト面で積極的に推進していきたい。

問　介護予防事業を「大家族たかはま」としての取り組みと期待するものは。

答　個人の尊厳を守り、個人の役割を創ることが大切。町中の人達の「役割」を創ることを視野に入れ、単なる介護予防事業だけではなく、展開していきたい。



環境行政「粉塵等の被害に対する取り組み」について

小嶋　克文　議員

問　春日町内に産業廃棄物の中間処理工場が操業を始めたが、愛知県から事前に連絡、情報等はあったのか。

答　県から事前に情報の提供等はありませんでした。

問　工場の操業に伴い周辺から粉塵、騒音等の苦情が相次いでいるが、市としてどのような対応をしているのか。

答　事業所の代表者に、粉塵等の苦情が寄せられたことを伝えると共に、改善の申入れをしている。事業所からは善処するとの回答を得ている。

問　安心して生活できるには、更なる改善が必要、今後の市の取り組みについて。

答　引き続き、西三河事務所などと協力し、合同の現地調査の実施、現地指導の立会いなどを行ってまいりたい。

小中学校における暑さ対策について

問　今年も、厳しい暑さが続いており、学習環境だ